

宇都宮市立宝木小学校第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	89.1	87.9	87.8
	書くこと	68.4	67.6	67.1
	読むこと	56.2	56.3	54.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	67.5	67.6	66.0
観点	話す・聞く能力	89.1	87.9	87.8
	書く能力	67.6	66.3	65.7
	読む能力	56.2	56.3	54.1
	言語についての知識・理解・技能	67.4	67.7	66.0

★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「話の中心に気を付けて聞くことができるか」を問う問題では、正答率が96.2%と高く、県平均を1.8ポイント上回っている。 ●「話し方の工夫に気を付けて聞けるか」を問う問題では、正答率が77.1%と他と比べて低くなっている。	・今後も聞くことの大切さを普段の授業の中で強調しながら、指導を続けていく。
書くこと	○「手紙を読み手に正確に伝えられるように注意して書けるか」を問う問題では、正答率が県平均を7.8ポイント上回っている。 ●「招待する手紙を敬体で書くことができるか」を問う問題では、正答率が県平均を2.9ポイント下回っている。	・手紙の書き方については、総合的な学習等で生かしていきたい。 ・日ごろから、目上の方への話し方等、敬語の使い方を意識させる。
読むこと	○「登場人物の気持ちを想像して読み取れるか」を問う問題では、正答率が県平均を7.2ポイント上回っている。 ●「文と文のつながりに注意して、文章を読むことができるか」を問う問題では、正答率が県平均を1.1ポイント下回っている。 ●「場面の様子を叙述を基にして読むことができるか」という問題では、正答率が県平均を0.6ポイント上回っているが、32.8%とかなり低い。	・今後も朝の読書や読み聞かせ等を通して、読書習慣の定着を図っていききたい。 ・説明文では段落を要約するとともに、各段落のつながりに注意させながら内容をとらえさせていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○第3学年配当の「漢字の読み」については、正答率が県平均よりも11.2ポイント高く、3つとも県平均を上回っている。 ●第3学年配当の「漢字の書き」については、正答率が県平均よりも12.2ポイント低い。中でも、漢字の中の「定める」を書かせる問題では、正答率が22.5%とかなり低い。	・ドリル的な学習を繰り返し行うようにし、履修漢字の定着化を図っていききたい。